

平成28年度第1回長崎県観光審議会 会議結果

1. 日 時 平成28年10月17日(月) 13:30 から 16:30 まで
2. 場 所 ホテルセントヒル長崎2階「妙見の間」
3. 出席者 安徳会長、深田副会長、内田委員、河野委員、草野委員、高田委員、道津委員、納富委員、丸山委員、矢口委員、桑原委員、徳島委員、中坂委員、中山委員

4. 議 事

- (1) 長崎県観光振興基本計画の実施状況について
- (2) 市町観光地づくり実施計画について
- (3) 観光地域づくりについて(DMO)

5. 委員の主な発言(市町観光地づくり実施計画について)

<長崎市>

観光客ニーズを把握するにあたっては、来県した観光客へのアンケート調査だけでなく、まだ来ていない人について、これからどのような人が来るのか、来る可能性があるのかという視点にたった潜在的ニーズを把握することも必要。

<佐世保市>

イベントでの集客はあくまでもイベントに来ることが目的。通常のみち中観光をどう磨き上げるかを平行してやっていく努力が必要。

<島原市>

みち中をどう歩かせるかが大きな課題。宮崎県日南市の飫肥の城下町は城下町であるがそれといった魅力が何もなかったが、少しずつ「食べ歩き・まち歩き」を増やし成功している。素材の増やし方、プロモーションの仕方が参考になるのではないかと。

< 雲仙市 >

温泉街がどうなるかが大事。観光客が宿を出てどう楽しむかという視点に立ったまちづくりが生命線だと思う。

< 大村市 >

インバウンド向けにはWi - Fiの整備が必須。地方に行けばいくほど整備が進んでいない。観光アプリの充実も必要。観光ガイドを育成するよりも、観光アプリを充実することで、外国人対応をスピードアップできるのではないか。

< 松浦市 >

道路整備が進んでいるので、福岡へのアクセスが容易であるが、通過点になってしまっている。生かせる資産もあるので、平戸市や佐賀県と連携が必要ではないか。

< 南島原市 >

廃校舎の活用については、他の地域でやっていないことを考えるべき。観光利用であれば必ずとがったもの考える必要がある。

< 東彼杵町 >

グランピングが流行っており、田舎の売り方が変わってきている。田舎だから不便を我慢しようという人がどんどん減ってきており、田舎は見たいが居住性は快適であってほしいというのがニーズとなってきている。

< 小値賀町 >

島の旅館は家業でやっている。人材育成が課題だが、セミナーをやっても本当に来て欲しい人が参加してくれない。また、セミナーを行う場合は、講師が同じぐらいの価格帯の宿に連れて行って、他所はこういうサービスをやっていることを実感させることで、自分の施設と比べ、学びの動機になると思う。